

事業活動報告 事業所名 地域活動支援センター絆

1.2016年度 事業所方針
<p>1. 亀岡在住の主に知的障害や障害のある人たちがこの地域の主人公として、いっそう心豊かに、主体的に暮らしていけるよう、生きる力を強める支援をします。</p> <p>2. 利用者のニーズを探り、一人一人ほっとできる場、落ち着ける場の模索をしていきます。</p> <p>3. センターの職員間で報告・連絡・相談していきます。</p>
2.利用者・職員状況について
<p>2. 利用者・職員の状況</p> <p>登録人数/25名 年間のべ利用人数/492名 職員/正規1・非正規1</p> <p>開所日 火・木・金・土・日</p>
3.実践内容について
<p>1. 社会との繋がりを！外に出るきっかけがほしい！！</p> <p>・今年度新規利用者の相談が10件以上あり、うち体験利用・登録されたケースが6件ありました。家族からの相談や市役所、相談支援関係機関からの相談が多く、登録に至らなかったケースとしても、本人一人での通所が難しく外に出ることが難しい方、本人が外に出る必要性を感じておられない方が多くありました。紹介されるケースのうち3分の1は虐待の可能性も問われるケースでした。</p> <p>2. 居場所の大切さ</p> <p>→利用者の年齢層が幅広く、22歳から68歳までの幅広い年齢層の方が利用されています。幅広い年齢層の方と交流ができるというメリットがあり、人生経験豊かな利用者から、様々な話を聞くことで、若いメンバーにとって良い刺激になっています。</p> <p>一方、体調が悪く足腰が弱り自分から外に出るのが難しい方や、職員からの連絡を待ち外に出る切っ掛けを探そうとされる方もあります。継続利用の大きなキーワードとして、自分で決定し足を運ぶという事が大切になってきます。本人にとって、何度も連絡をするのは良いことなのか、本人が忘れられた感を感じないよう、どのような切っ掛け作りが良いのか悩むところですが、本人にとって魅力あるプログラムを用意するか今後も検討していきます。</p> <p>3. 当事者交流</p> <p>NPO法人諸星塾と合同クリスマス会開催しました。なんたん障害者就業・生活支援センター、相談支援センターお結びとの共同開催、当事者学習会に参加しました。</p> <p>4. センターの職員間で報告・連絡・相談していきます。</p> <p>・センター内での情報共有…月の活動予定と来所予定者の一覧を作り、職員間で“誰がどの時間来所されるか”の共有できるよう工夫をしました。来所予定の多い日や1対1対応が必要な人が利用される日には、お結びの職員とも連携し応援に入ってもらうことで、利用者の安心・安全に繋げることができました。</p> <p>・ヒヤリハットの活用…病院に行くような事故やケガだけではなく、小さいケガ（包丁で少し指を切った、フライパンで火傷をした）など、軽いケガでも振り返りを行いました。活動に参加する方全体で注意しあうことで、積極的に活動することができました。その都度、“なぜ起こったが、どのような状況で、ケガが起こらないようにするにはどうしたらよかったか”を振り返ること原因を振り返ること大きなけがや事故の防止に繋げていきます。</p>
4.成果と次年度への課題について
<p>・本人と家族の高齢化を進んでおり、やむを得ず生活環境が変化する利用者が増えています。今後も増加の一途です。この地域にある様々な事業所と連携し、利用者の「あたりまえに生きる」を支えていきたいです。</p> <p>・昨年度以上の利用者工賃を支給するために、新たな仕事の確保、効率の良い作業空間づくりを検討していきます。</p>